

しんらん同人

No,542

1・2  
月号

慈



「慈」は浄土真宗の要の文字です。

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

明けましておめでとうございます。

お慈悲に包まれた穏やかな一年でありますことを念じております。

先日 「二月のご法事ご案内」 を発送しました。

その時のこと。 たまたま八十二円切手が少なく「五十円・二十円・十円・二円」「五十円・十五円・十五円・二円」等々手元の切手で八十二円の組み合わせを数十組作り、封筒に貼っていきました。

近所の郵便局で八十二円の切手を買ってくれば簡単に終わる事務作業ですが、中途半端に残り、以前から気になっていた五十円・三十円切手の在庫整理を兼ねてすすめることにしました。

初めは手間がかかる作業でしたが、そのうちに坊守が「なんかパツチワークみたいで楽しい」と言い出しました。そう思うと急に作業が進みだしました。 おかげで中途半端な切手も随分整理されました。

日頃の法務や仕事も取組む時の気持ち次第で、楽しくなったりつまらない作業のままです。他からさせられるのではなく、自分から進んで行くという半歩進んだ気持ちが大切なんでしょう。

あれもしなければ、これもしなければと考えるがなかなか片付かない日頃の生活の中で気付かされた切手貼りでした。

## 仏心とは大慈悲のことなり



安心決定鈔（第八代宗主蓮如上人によって、本願寺派の聖教とされた）に「仏心とは大慈悲心なり、仏心はわれらを愍念したまふこと骨髓にとほりて染みつきたまへり。たとへば火の炭におこりつきたるがごとし、はなたとするともなるべからず、摂取の心光われらを照らして、身より髓にとほる。心は三毒煩惱の心までも功德の染みつかむところはなし。」

大慈悲とは絶大の慈悲であり、限りなく隔てることのないお慈悲ということであります。

善人とか悪人とか、日本人とか外国人とか、他宗教のひとつであるとかそんな差別がない。

近づいてくる者だけでなく、逃げていく者をも追いかけて抱きとりたもうものであります。

されば、「わが身の悪ければ、いかでか如来迎えたまわん」と思うべからず。

凡夫はもとより煩惱具足したる故に悪きものと思うべし、また

「わが心のよければ往生すべし」と思うべからず、自力の御計らいいにては真実の報土へ生ずべからざるなりと聖人も仰せられました。

善悪をわけへだてぬ、絶大の御慈悲をそのままいただくのであります。

仏さまの御慈悲は、煩惱に狂い、迷いの闇をさまようわれらをあわれと思しめして、五劫兆載劫永劫の御苦勞を遊ばされ、そして煩惱に汚れたまま、どうしようもない私の中に、南無阿弥陀仏のまこと、清浄真実の心が満入して下さったのであります。

このお慈悲の心、私を思つて下さる如来のみ心は、私の骨の髄まで染みとおつて離れたまわす。

ちようど炭に火が付いたようなものであります。

私がどんなに振り切ろう、離そうとしても離すことが出来ないのであります。

この身を包む摂取の光りは、骨の髄まで透つて、腹立ちや欲や愚痴の心の中にも、如来の功德が染みついて下さるのであります。

されば、燃え盛る煩惱の中からお念仏申されるのであります。

「如来さまは、お浄土においてになるのではないか」と問い詰められた清九郎は「如来さまは、お浄土にはお留守でしょう」と



前婦人会長 山口敏江様の作品（刺繍）  
（娘さんからお寺に寄贈していただきました）

答え、続いて「如来さまは、親さま。如来さまは、この清九郎の、この燃える煩惱の火の中に立ち通しに立っていて下さる。この汚い口からお念仏が飛び出して下さる」と答えたといいます。

こちらが信じ、称えているとは大間違い、大慈召喚の声を聞く一念に如来の真心が汚れ果てたこの心の中に入り満ちて下さるのでありますから」、信ずる心も、称える口も、合わせる掌も、みんな如来のお計らいであります。



## 「法味抄」より

佛は、すべての衆生のために、常に慈しみの父となったり、母となったりして下さい。すべての衆生は如来の子である。

（信巻）

佛の慈悲は苦しむものに注がれている。清浄安穩の世界をみちびいて下さるのである。岸の上の人を救う必要はなく、水におぼれている人をこそ直ちに救わなければならないように。

たとえ沢山な子供があっても、父母は平等に愛しているのはあるが、父母の心は特に病める子にそそがれる。佛もまたすべての衆生を平等にあわれんで下さるのであるが、罪ある者をことにあわれんで下さるのである。

（信巻）

「法味抄」は、故岡本泰雄が「聖語を読みたいと思っても、漢文や古文で書かれているのでなかなか理解しにくい。わかりやすい仏教書がほしい。」という方々の願いに応じて、真宗聖教中から要文を抜き出し、意識した冊子です。

聖語末の（ ）内の文字は聖教の書名を略記したものです。

## 慢心 古賀明德（行信教校在学）

大阪の高槻市にある行信教校で学ばせていただくようになり1年9ヶ月経ちました。今春からは最上級生になります。思い返せば、4年前までは、私は仏教とは無縁のところでした。生活しており、宗祖の名前すら正確に書けない状況でした。

そんな私が仏法と出会い、行信教校で真宗のご法議を学び、昨年の正月には仏教の生まれたインドへ行き、春にはお得度を受けて僧侶となり、秋には住職の資格である教師まで取ることができました。・・・この書き方は誤りです。正しく書くのであるならば、周りの方々のご助力により、させていただいたのです。

仏教には縁起というものがあります。因と縁、○○により○○が起るという考え方であり、この世界におけるものは全て縁起によって繋がっています。私という存在は、この縁起により作られています。逆に言えば、そのうちのたった一つの縁起が無いだけで私というものは存

在しなくなり、お経で、釈尊は人間として生まれることは、とても難しいことであると言われている、更に仏教を聞く身となることは難しいことであると言われています。4年前までは、人や物事を自分の好き嫌いで判断し、自分の力で生きていると勘違いしていましたが、本当は周りの全てが私を生かしてくれていたのです。そして、そのおかげでこうして今、阿弥陀さまの救いを聞くことができる身へとさせていただけたのです。

昨年、得度をする際に私は「慢心を持たない僧侶になりたい」と書きました。慢とは、仏教における煩惱の一つで他人と比較して思い上がることを言います。他人に対し優劣をつける言葉です。でも、自分が周りにより生かされていることに感謝して生きれば、そのような気持ちは自ずと無くなります。自分を一番に考えることを捨てるのは、人間にとって難しいことですが、日々周りに生かされていることに感謝しつつ生活する、そんな僧侶になっていきたいと思っています。



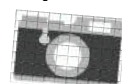
5月  
東京教区仏教婦人会総会  
(築地)



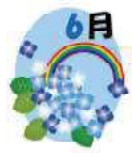
3月  
伝灯奉告 団体参拝  
(京都)



写真で振り返る  
平成29年



誓願寺 平成30年 年間ご法座のご案内



6月 6月  
24日 10日  
(日) (日)  
13時 10時  
定例法座 定例法座



5月 5月  
27日 13日  
(日) (日)  
13時 10時  
永代経法要 定例法座



4月 4月  
22日 8日  
(日) (日)  
13時 10時  
定例法座 花まつり



3月 3月  
25日 11日  
(日) (日)  
13時 10時  
彼岸会法要 定例法座



2月 2月  
25日 11日  
(日) (日)  
13時 10時  
定例法座 定例法座



1月 1月 1月  
28日 14日 1日  
(日) (日) (月)  
13時 10時 13時  
新春特別法座 定例法座 年頭法座



12月 12月 12月  
31日 16日 9日  
(月) (日) (日)  
24時 13時 10時  
除夜会 定例法座 定例法座



11月 11月  
25日 11日  
(日) (日)  
10時 10時  
報恩講法要 定例法座



10月 10月  
28日 14日  
(日) (日)  
13時 10時  
定例法座 定例法座



9月 9月  
23日 9日  
(日) (日)  
10時 10時  
彼岸会法要 婦人会追悼法要



8月 8月  
26日 12日  
(日) (日)  
10時 10時  
定例法座 お盆法要



7月 7月  
22日 8日  
(日) (日)  
13時 10時  
定例法座 お盆法要



11月 報恩講後の交流会



10月 第二代住職の三回忌



7月・8月 お盆法要

【ご法座等のご案内】

1月

2月

1・1 (月)

■午後一時  
年頭法座

1・14 (日)

■午前十時

定例法座 【岡本信之師】

■正午

医療相談 【佐藤公彦医師】

1・21 (日)

■午前十時

なかよしクラブ  
(乳幼児から小学生まで)

1・28 (日)

■午後一時

新春特法座・祥月命日合同法要

【高田慈昭師】

2・11 (日)

■午前十時

定例法座 【岡本信悟師】

■正午

医療相談 【佐藤公彦医師】

2・18 (日)

■午前十時

なかよしクラブ  
(乳幼児から小学生まで)

2・25 (日)

■午後一時

定例法座・祥月命日合同法要

【高田慈昭師】

編集後記

・五年程前までの年末の恒例行事は「干し柿作り」でした。佐賀県脊振山麓の農家で買ってきた渋柿を百個程、二日ばかりで剥いて干し、数日おきに揉みながら半熟状態の時に食べたり冷凍庫に保管したりしながら三月頃まで楽しんでました。

・東京でも渋柿を探すのですが、思ったものがなかなか有りません。またお寺には南向きの適当な干し場がなく、干し柿はもっぱらお店で買うこととなりました。

・代わりに恒例行事に成ったのが、ご法座日程付きのカレンダー作りです。年末に一冊当たり七十回・総数二万七千回の押印をやっと済ませたカレンダーを発送するとホットしながら、ご出講のご講師への感謝の思いが湧いてまいります。

・追伸 お正月の恒例行事は元旦会と箱根駅伝の応援です。平成三十年来寺記念品は爪切りです。



【来寺記念品の爪切り】



われも ひかりの  
うちにあり  
【中に印字しています】